

定住促進策や産業振興

ふくろい
創生会議 市長らと意見交換

地方創生に向けて官民が取り組みを進める「輝くふくろい」まち・ひと・しごと創生会議」の第五回ふくろい部会が二十七日、市役所であった。袋井商工会議所の水谷欣志会頭、静岡理工科大の野口博学長らメンバー五人が出席し、子育て世代の定住促進策などについて原田英之市長や幹部職員と意見を交わした。市側が二〇一七年度の地方創生事業の結果などを報告。メンバーからは地域の課題解決に向けた市の姿勢を評価する声があった。一方で「市の輸送機器産業は



エンジン部品関係の製造業が多く、EV(電気自動

車)化の影響は極めて大きい」として、電子部品製造、ソフト産業など新たな分野への産業構造の転換が必要だとの意見も出た。

原田市長は「地域の稼ぐ力の向上」「日本一健康文化都市」の実現の各戦略を推進する方針をあらためて示し、「地方で暮らす魅力をどうやって創造し、発信していくのか知恵を絞っていきたい」と話した。

創生会議はふくろい部会に続き、七月二日に東京で首都圏部会を開催。市内出身の企業経営者らのメンバーが原田市長らと意見交換する。(土屋祐二)

地方創生事業の取り組みについて意見交換する原田英之市長(右から二回目)ら(袋井市役所で